

ひふみのあゆみ



ひふみらいと

ひふみらいと 追加型投信/内外/資産複合

2023年2月度 月次ご報告書

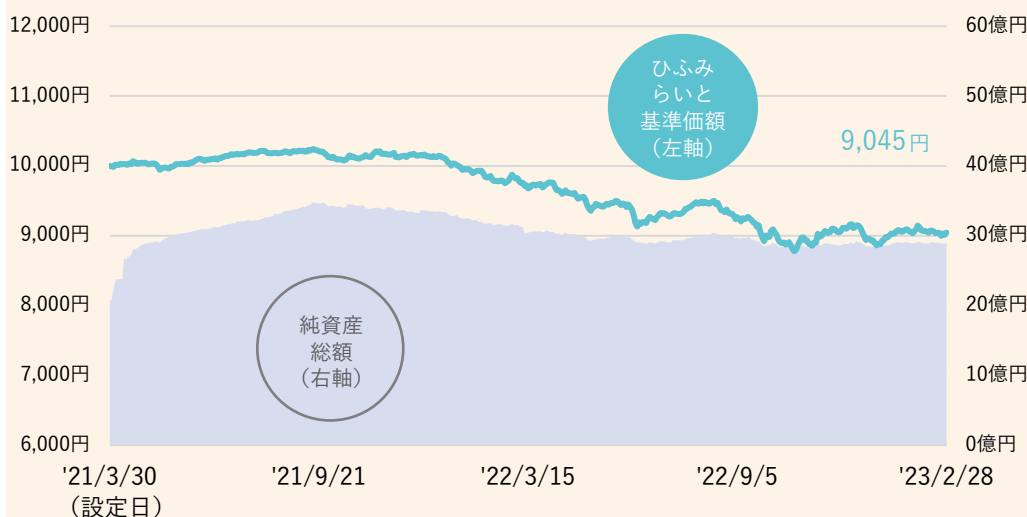
レオス・キャピタルワークスよりお客様へ
資産形成のパートナーに「ひふみらいと」をお選びいただき、ありがとうございます。
運用状況ならびに運用責任者からお客様へのメッセージなどをご報告します。



作成基準日：2023年2月28日

運用実績

基準価額等の推移（日次）



※基準価額は1万口あたりです。また信託報酬控除後の値です。

※当レポートにおいて特段の注記がない場合は、基準日時点における組入比率や運用実績を表しています。また運用成績など表記の値については、小数点第三位を四捨五入して表示しています。そのため組入比率などでは合計が100%にならない場合があります。

※「運用成績」の「設定来」は、設定時の価額（10,000円）を起点として算出しております。

※「純資産総額」は100万円未満を切捨てて表示しています。

※「受益権総口数」とは、お客様に保有していただいている口数合計です。

*「ひふみワールドファンド」は正式名称を『ひふみワールドファンド FOFs用（適格機関投資家専用）』といい、「ひふみワールドマザーファンド」を高位に組み入れています。

※「現金等」には未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

※「基準価額の変動要因」は、月間の変動額を主な要因に分解した概算値であり、実際の数値とは異なる場合があります。また、四捨五入等の関係で、内訳の各数値の合計は基準価額変動額（月次）と合わない場合があります。「信託報酬・その他」のその他には、設定、解約の影響などがあります。

※「ひふみらいと」は複数の投資信託証券（投資対象ファンド）への投資を通じて実質的に債券や株式等へ投資し、投資対象ファンドの基本の組入比率：「ひふみグローバル債券マザーファンド」90%、「ひふみ投信マザーファンド」5%、「ひふみワールドファンドFOFs用（適格機関投資家専用）」5%を維持することを目指して運用を行います。（市況動向や運用の状況によっては組入比率が変動する場合があります）各投資対象ファンド等の状況については後述の「ご参考：マザーファンド基準価額の推移と運用実績」をご覧ください。

運用成績

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ひふみらいと	0.12%	-0.07%	-2.89%	-7.60%	-	-9.55%

ひふみらいとの運用状況

基準価額	9,045円
純資産総額	28.94億円
受益権総口数	3,199,818,321口

ひふみらいと 投資信託財産の構成

ひふみグローバル債券マザーファンド	89.57%
ひふみ投信マザーファンド	4.99%
ひふみワールドファンド*	4.95%
現金等	0.49%
合計	100.00%

分配の推移（1万口当たり、税引前）

第1期	2022年4月	0円
-	-	-
-	-	-
-	-	-
-	-	-
-	-	-
設定来合計		0円

基準価額の変動要因

基準価額変動額（月次） +11円

〔組み入れファンド別変動要因内訳〕

ひふみグローバル債券マザーファンド	-8円
ひふみ投信マザーファンド	+7円
ひふみワールドファンド*	+15円
信託報酬・その他	-3円

〔実質的な資産等項目別の変動要因内訳〕

債券	+2円
株式・投資証券	+3円
為替	+9円
信託報酬・その他	-4円

ひふみグローバル債券マザーファンド 運用状況

ひふみグローバル債券マザーファンドの状況	
純資産総額	240.82億円
組み入れ銘柄数	37銘柄

種別比率	
国債	52.83%
社債	24.17%
住宅ローン担保証券	6.31%
特殊債	2.91%
地方債	1.81%
国際機関債	1.05%
-	-
現金等	10.93%
合計	100.00%

為替ヘッジ比率	
	97.19%

組み入れ上位5通貨 比率	
1 米ドル	43.05%
2 日本円	20.77%
3 ユーロ	20.09%
4 中国元	2.91%
5 オーストラリア・ドル	1.81%

ポートフォリオ特性値	
最終利回り	3.34%
デュレーション	8.0

格付比率	
AAA	28.62%
AA	4.07%
A	49.73%
BBB	6.65%
BB以下	-

資産別比率	
海外債券	68.30%
国内債券	20.77%
-	-
現金等	10.93%
合計	100.00%

組み入れ上位5カ国 比率	
1 アメリカ	43.62%
2 日本	22.99%
3 スペイン	6.31%
4 イタリア	6.19%
5 中国	2.91%

組み入れ上位10銘柄 比率					
銘柄名	種類	国	通貨	償還日	組入比率
1 日本国債（30年）	国債	日本	日本円	2052/12/20	9.60%
2 米国国債	国債	アメリカ	米ドル	2041/2/15	7.68%
3 スペイン国債	国債	スペイン	ユーロ	2033/4/30	6.31%
4 イタリア国債	国債	イタリア	ユーロ	2032/12/1	6.19%
5 米国国債	国債	アメリカ	米ドル	2027/12/31	5.02%
6 米国住宅ローン担保証券	住宅ローン担保証券	アメリカ	米ドル	2052/3/25	4.12%
7 日本国債（40年）	国債	日本	日本円	2062/3/20	3.99%
8 バンク・オブ・アメリカ	社債	アメリカ	ユーロ	2026/9/22	3.60%
9 三井住友フィナンシャルグループ	社債	日本	米ドル	2027/1/14	3.37%
10 米国国債	国債	アメリカ	米ドル	2041/8/15	3.33%

※「純資産総額」は100万円未満を切捨てて表示しています。

※「ポートフォリオ特性値」は、ファンドの組入債券等（現金等を含む）の各特性値（最終利回り、デュレーション）を、その組入比率で加重平均したものです。なお、債券先物を含めて計算しています。（Bloombergの情報を基にレオス・キャピタルワークス株式会社作成）最終利回りは、ファンドが投資している債券等の特性を示すために各債券の利回りから算出したものであり、ファンドの運用成果を示唆、保証するものではありません。デュレーションは、金利の変動による債券価格の感応度を表しています。値が大きいくほど金利変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

※各比率は、ひふみグローバル債券マザーファンドの純資産総額に対する比率を表示しております。

※「種別比率」「資産別比率」の現金等は、純資産総額から有価証券時価総額を差し引いたコールローン、その他の資産です。なお、ヘッジ目的で先物取引を利用する場合があります。

※格付は、ムーディーズおよびS&Pの格付のうち高いものを採用し、S&Pの格付形式で表示しています。

※「組み入れ上位5カ国比率」は原則として発行国で区分しております。なお、国には地域が含まれます。また、国際機関等特定の国に分類しない場合があります。

※「格付比率」「組み入れ上位5通貨比率」「組み入れ上位5カ国比率」は、現物債券について表示しております。

※「為替ヘッジ比率」は、純資産総額に対する為替予約評価額と円貨資産額の合計の比率です。売買等の計上タイミングや市況動向により比率が100%を超える場合があります。

ひふみ投信マザーファンド 運用状況

ひふみ投信マザーファンドの状況	
純資産総額	7,203.48億円
組み入れ銘柄数	282銘柄

資産配分比率	
国内株式	88.33%
海外株式	5.00%
現金等	6.67%
合計	100.00%

市場別比率	
プライム市場	85.55%
スタンダード市場	2.37%
グロース市場	0.41%
その他海外株	5.00%
現金等	6.67%
合計	100.00%

組み入れ上位10業種 比率	
1 情報・通信業	12.04%
2 電気機器	11.77%
3 銀行業	10.21%
4 サービス業	6.62%
5 機械	5.07%
6 保険業	4.50%
7 食料品	4.42%
8 化学	4.33%
9 小売業	4.03%
10 建設業	3.89%

※「純資産総額」は100万円未満を切捨てて表示しています。

※各比率は、ひふみ投信マザーファンドの純資産総額に対する比率を表示しております。

※「資産配分比率」「市場別比率」の現金等は、純資産総額から有価証券時価総額を差し引いたコールローン、その他の資産です。

※「資産配分比率」の株式には新株予約権を含む場合があります。

※「組み入れ上位10業種比率」は国内株式における上位業種を表示しています。

※「組み入れ上位10業種比率」「組み入れ上位10銘柄比率」の業種は、東証33業種分類を用いて表示しています。なお、海外株式については「その他海外株」として表示しています。

※「組み入れ上位10銘柄比率」の規模は、基準日時点の時価総額と以下の区分に基づき作成しています。
大型(3,000億円以上)
中小型(300億円以上、3,000億円未満)
超小型(300億円未満)

組み入れ上位10銘柄 比率						
	銘柄名	銘柄コード	規模	上場市場	業種	組入比率
1	アドバンテスト	6857	大型	プライム市場	電気機器	2.80%
2	三菱UFJフィナンシャル・グループ	8306	大型	プライム市場	銀行業	2.32%
3	東京海上ホールディングス	8766	大型	プライム市場	保険業	1.99%
4	ソニーグループ	6758	大型	プライム市場	電気機器	1.92%
5	三井住友フィナンシャルグループ	8316	大型	プライム市場	銀行業	1.79%
6	日本電信電話	9432	大型	プライム市場	情報・通信業	1.79%
7	第一生命ホールディングス	8750	大型	プライム市場	保険業	1.75%
8	インターネットイニシアティブ	3774	大型	プライム市場	情報・通信業	1.70%
9	ディスコ	6146	大型	プライム市場	機械	1.69%
10	GMOペイメントゲートウェイ	3769	大型	プライム市場	情報・通信業	1.64%

ひふみワールドファンド* 運用状況

純資産総額	225.02億円	投資信託財産の構成	
		ひふみワールドマザーファンド	99.76%
		現金等	0.24%
		合計	100.00%

*「ひふみワールドファンド」は正式名称を『ひふみワールドファンド FOFs用（適格機関投資家専用）』といい、「ひふみワールドマザーファンド」を高位に組み入れています。

※「純資産総額」は100万円未満を切捨てて表示しています。

※各比率は、純資産総額に対する比率を表示しています。

※現金等は、純資産総額から有価証券時価総額を差し引いたコールローン、その他の資産です。未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

※「資産配分比率」の株式には、新株予約権を含む場合があります。海外投資証券はREIT（不動産投資信託）等です。

※「組み入れ上位10カ国比率」「組み入れ上位10銘柄比率」の国は、原則として発行国で区分しております。なお、国には地域が含まれます。

※「組み入れ上位10業種比率」「組み入れ上位10銘柄比率」の業種は、株式における上位業種を表示し、原則としてGICS（世界産業分類基準）の産業グループ分類に準じて表示しております。

ひふみワールドマザーファンド 運用状況

ひふみワールドマザーファンドの状況	組み入れ上位10カ国 比率
純資産総額 2,816.87億円	1 アメリカ 67.12%
組み入れ銘柄数 144銘柄	2 中国 4.85%
	3 ドイツ 4.79%
	4 スイス 3.86%
	5 イタリア 2.46%
	6 台湾 2.17%
	7 フランス 1.99%
	8 アイルランド 1.86%
	9 オランダ 1.61%
	10 オーストラリア 1.53%

資産配分比率	組み入れ上位10業種 比率
海外株式 96.54%	1 ソフトウェア・サービス 19.57%
- -	2 資本財 11.16%
現金等 3.46%	3 半導体・半導体製造装置 9.93%
合計 100.00%	4 自動車・自動車部品 9.48%
	5 食品・飲料・タバコ 7.55%
	6 小売 4.87%
	7 耐久消費財・アパレル 4.79%
	8 メディア・娯楽 4.74%
	9 消費者サービス 4.49%
	10 テクノロジー・ハードウェアおよび機器 3.91%

組み入れ上位10銘柄 比率				
銘柄名	国	通貨	業種	組入比率
1 COMPAGNIE FINANCIERE RICHEMONT SA	スイス	スイス・フラン	耐久消費財・アパレル	2.65%
2 PALO ALTO NETWORKS, INC.	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	2.55%
3 MOTOROLA SOLUTIONS, INC	アメリカ	米ドル	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	2.53%
4 FERRARI NV	イタリア	米ドル	自動車・自動車部品	2.46%
5 TETRA TECH, INC	アメリカ	米ドル	商業・専門サービス	2.34%
6 INTUIT INC	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	2.11%
7 DR. ING. H.C. F. PORSCHE AG	ドイツ	ユーロ	自動車・自動車部品	2.03%
8 ORACLE CORPORATION	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	2.01%
9 MICROSOFT CORPORATION	アメリカ	米ドル	ソフトウェア・サービス	1.99%
10 ACCENTURE PLC	アイルランド	米ドル	ソフトウェア・サービス	1.86%

ひふみグローバル債券マザーファンド 基準価額の推移（日次）



ひふみグローバル債券マザーファンド 運用成績	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	ひふみらいと設定来
	-0.10%	-0.11%	-3.25%	-8.55%	-	-9.78%

ひふみ投信マザーファンド 基準価額の推移（日次）



ひふみ投信マザーファンド 運用成績	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	ひふみらいと設定来
	1.58%	0.82%	1.86%	4.14%	-	-9.47%

ひふみワールドマザーファンド 基準価額の推移（日次）



ひふみワールドマザーファンド 運用成績	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	ひふみらいと設定来
	3.47%	2.38%	3.61%	6.67%	-	12.02%

※「ひふみらいと」が直接または間接的に投資している各投資信託証券の基準価額の推移と運用成績を、「ひふみらいと」の当初設定日の前営業日（2021年3月29日）を10,000として指数化して作成、算出しております。

※運用成績は小数点第三位を四捨五入して表示しています。「ひふみらいと設定来」は、「ひふみらいと」の設定日の前営業日（2021年3月29日）（「ひふみグローバル債券マザーファンド」は当初設定時）を起点として算出しております。

※「ひふみらいと」の投資対象ファンドの一つである「ひふみワールドファンドFOFs用（適格機関投資家専用）」は、「ひふみワールドマザーファンド」を高位に組み入れています。ここでは、「ひふみワールドマザーファンド」の基準価額の推移と運用成績を記載しております。

ファンドに組み入れている「ひふみグローバル債券マザーファンド」の下落がマイナスに影響したものの、「ひふみ投信マザーファンド」および「ひふみワールドファンドFOFs用（適格機関投資家専用）」の上昇がプラスに寄与したことで、基準価額は前月末に比べて0.12%上昇しました。

【ひふみ投信マザーファンド】

日本政府は日銀の次期総裁として元日銀審議委員の植田和男氏を起用する人事案を固めました。同氏が金融緩和の継続方針を表明したことなどから日本の株式市場で買い安心感が広がり、当ファンドの基準価額は1.58%上昇しました。

【ひふみワールドファンドFOFs用（適格機関投資家専用）】

米国の雇用統計や消費者物価指数が市場予想を上回る強い結果になったことで、同国の利上げの早期停止や年内の利下げ期待が後退しました。金利の上昇を嫌気し日本を除く世界の株式は軟調に推移したものの、円安ドル高の動きが強まったことで、当ファンドの基準価額は3.44%上昇しました。

【ひふみグローバル債券マザーファンド】

米国でインフレに対する警戒感が再び強まるなか、世界的に金利が大きく上昇（債券価格は下落）しましたが、当ファンドの基準価額は0.10%の下落にとどまりました。

米欧では、懸念された景気の急減速が足もとでは起こっていないことが最近の経済指標から確認されています。一方で、米国ではインフレ低下のペースも鈍ってきており、金融市場が経済指標に大きく振られる状況は当面続きそうです。引き続き皆様からお預かりしている大切な資産を全力で運用してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(3月1日)



ひふみらいと
ファンドマネージャー
岡田 泰輔

※TOPIXは、全てTOPIX（配当込み）を用いています。TOPIX（配当込み）は当ファンドのベンチマーク（運用する際に目標とする基準）ではありませんが、参考として記載しています。TOPIXは、株式会社J P X総研が算出、公表する株価指数です。日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。

※TOPIX等の指数値およびTOPIX等に係る標章または商標は、株式会社J P X総研または株式会社J P X総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIX等に関するすべての権利・ノウハウおよびTOPIX等に係る標章または商標に関するすべての権利はJ P Xが有します。J P Xは、TOPIX等の指数値の算出または公表の誤謬、遅延または中断に対し、責任を負いません。当ファンドは、J P Xにより提供、保証または販売されるものではなく、当ファンドの設定、販売および販売促進活動に起因するいかなる損害に対してもJ P Xは責任を負いません。

次期日銀総裁に植田和男氏が就任することが確実視されています。国会での所信聴取では、「金融緩和を継続」等ハト派（金融緩和派）な発言が目立ちましたが、2つの意味で割引いて考える必要があるでしょう。1つ目は安倍派等緩和志向の政治家への配慮、もう1つはYCC（イールドカーブコントロール）修正へ向けて投機勢に言質をあたえないことです。現時点では、政府との共同声明の見直しやマイナス金利撤廃等、引締めへの方向性を匂わせるとその前のステップとしてYCC修正が意識されてしまいます。YCC修正が確実視されると、投機勢は債券を空売りすることで容易に利益を得る可能性が高くなります。岸田首相は植田氏を起用した理由としてコミュニケーション力を重視したと説明していますが、新総裁は自由に発言できない状況になっています。これを打破するにはYCCの修正が必須であり、その意味で3月または4月といった早い時期に上限金利が上方に修正される可能性が高いと我々は見ています。ちなみに2月の20年日本国債の金利は1.37%から1.18%まで低下しており、YCC修正後も概ねこの辺りのレンジ感で取引されると見ています。

米国10年金利は、3.92%に上昇しました。2月1日のFOMC（連邦公開市場委員会）終了後にパウエル議長はディスインフレーションプロセスがスタートしたと発言しましたが、その後は経済指標の上ブレが続きました。また、CPI（消費者物価指数）の季節調整値が改訂されたため、ここ数ヶ月注目されているコアCPIの直近3カ月間の年率換算値が3%程度から4%程度に大幅に上方修正されました。利上げを抑制する必然性が薄れ、市場が織込む利上げ到達点は4.7%から5.4%に急上昇しました。インフレが再加速していることはやや想定外ですが、20年等長期の金利の上昇幅が穏やかなことで損失をおさえています。

独10年金利は2.65%まで上昇し月末を終えました。米国同様に経済、物価ともに強めの指標が相次ぎ、利上げ織込みを強めました。

引き続き全力で運用してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

（3月1日）



ひふみグローバル債券
マザーファンド
ファンドマネージャー

福室 光生

債券ってなに？～債券の基礎知識～【YouTube】

ひふみらいとがひふみグローバル債券マザーファンドを通じて投資している「債券」について、いまさら聞けない基礎知識を約10分で解説する動画をYouTubeの公式チャンネルにて好評配信中です。

専門用語をできるだけ使わずに、当社社員が分かりやすくお伝えしております。

ぜひご視聴いただき、債券運用への理解の一助としていただければ幸いです。



レオス・キャピタルワークス
【投資信託「ひふみ」公式】YouTubeチャンネル
登録者数2万人突破！
チャンネル登録をお願いします！

2023年2月の運用成績は前月比+1.58%であり、TOPIX（東証株価指数、配当込み）の0.95%を上回ることができました。ファンドマネジャーに復帰して2ヶ月目ですが、まずは単月でTOPIXを上回ることができてほっとしています。一方でもちろんのことですが、長期的な目線でパフォーマンスの向上を目指していこうと考えています。

市場環境は不透明ですが、いくつかのテーマがあります。

- 1) 中央銀行の政策変更：日銀総裁が黒田氏から植田氏に交代されるのに対応して、日銀の大幅な緩和姿勢の変更やイールドカーブ・コントロールの変更、ゼロ金利政策からの離脱などが考えられます。それにともない、金融株にはポジティブな影響があるので、金融株のウェイトを引き続き高めに維持しています。
- 2) インバウンド需要：コロナ禍の終焉とともに海外からの観光客が大幅に増加し始めています。市場予想よりもいわゆるインバウンド需要は拡大するとみています。ここは関連銘柄も多く、リターンの源泉になると考えています。
- 3) 半導体の回復：半導体関連銘柄は1年程度調整をしていましたが、サプライチェーンの回復や需要の回復などでここからのリターンを期待できます。
- 4) PBR（株価純資産倍率）1倍割れ銘柄の上昇：東京証券取引所が市場の再編の中で品質や流動性の低い企業の退出の方向性を示しており、それにともない、それらの企業のM&Aや自社株買いなどの発生が期待できます。そのような企業をグループとして投資をすることを考えています。

ほかにも細かいテーマが複数存在しており、リターンの源泉が多い状況だと考えています。今後も引き続き全力を尽くして運用をしたいと思います。これからもよろしくお願いいたします。

（3月3日）



ひふみ投信マザーファンド
ファンドマネージャー
藤野 英人

※日経平均株価に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は株式会社日本経済新聞社に帰属します。

桜が満開になる日を想って

ひふみワールドマザーファンドの2月末のパフォーマンスは+3.47%となり、引き続き堅調なパフォーマンスを維持しております。

さて巷では桜の開花予想が出てくる時期なのですが、残念ながら株式市場の満開はまだ先になりそうです。1月から2月前半にかけて発表された米国の経済指標では、インフレ圧力の緩和が観測されたことで利上げ早期休止への期待が高まったのですが、これまで発表された企業決算では大幅な業績悪化が少なく労働需給も一向に緩和しないことから、インフレ圧力の低下～利上げ休止～景気後退の観測～年後半には利下げ転換という楽観シナリオは後退し、反対に個人消費支出が上振れていることから景気の基調が依然強くインフレと利上げが長引き結果的には景気が悪化するという見方も増え、これらの間で相場は綱引きとなっているようです。

相場の焦点が米労働市場にあることは間違いないのですが、一方で中国がゼロコロナ政策撤回～経済再開へと舵を切ったことや、急上昇していた家計貯蓄率と相俟ってグローバル需要をドライブする可能性もあり（既に都内各所でも中国人の爆買いが散見されます）、インフレ輸出となりかねない点には注意が必要です。粘着性の高いインフレ圧力、そして未だ堅調な米経済の動きなどを考慮すると、以前のような低金利状態への早急な戻りは（かなり）難しいと見ていますが、かといって昨年のような過去に例のないスピードでの利上げが継続することもまた起こりにくいと考えています。

このような環境下で、ひふみワールドマザーファンドは投資銘柄の集約化を継続しています。とはいえバリュー株かグロース株といった単純な枠組みに囚われず、業績変動リスクが少なくキャッシュフロー創出力の高い企業群、またIRA（インフレ抑制法案）やChips Act（半導体法案）などによる米国内への設備投資回帰で潤う企業群、マクロ景気の偏重には無縁のラグジュアリー企業、そして昨年を通じて発生したバリュエーション調整により人气が離散した企業群など「安心して長期投資できる企業群」への集中を行なっています。チーム一丸となって外部環境の変化に柔軟に対応し、皆様からお預かりした大切な資産を増やすように努めてまいります。ひふみらいとをどうぞよろしくお願いいたします。

(3月3日)



ひふみワールドマザーファンド
ファンドマネージャー
湯浅 光裕



想定外に堅調な年初来の主要国景気

米国筆頭に利上げ打ち止めの後ズレ観測

米国や中国をはじめ世界経済は年初以降、想定外に堅調です。米国は1年近くにわたる大幅利上げにもかかわらず雇用増加や消費拡大が際立ち、欧州は天然ガス価格の急落（エネルギー危機の後退）もあって景況感が大きく改善しています。中国景気は昨年末にかけて失速しましたが、ゼロコロナ政策を撤廃し、急回復の様相です。さらに中国の2月の製造業PMIや同輸出向け受注の急回復からすると、グローバル景気の回復が示唆されます。日本も昨秋以降の経済再開や訪日観光客の増加、設備投資の復調などから底堅い動きが続いています。

世界景気の強さの主因は、コロナ禍の3年間が収束し、経済再開が強まり、抑圧されていた旅行・観光・サービス消費などが一斉に開花していることが挙げられます。加えて、主要国における過剰貯蓄の取り崩しや、経済再開に伴う雇用の強さ（堅調な所得環境）が支援要因です。副因としては、米中対立などに伴うハイテク分野（半導体、EV関連など）におけるサプライチェーンの再構築（投資ブーム）や、露宇戦争に伴う軍需産業の活況（戦争特需）などが挙げられます。一方、米欧などでは物価高騰に対して、強力な金融引き締めによって沈静化を目指していますが、景気や物価の強さから、最終利上げ水準（ターミナルレート）の引上げと利上げ打ち止め時期の後ズレ観測が強まっています。

2023年の世界株や投資環境に関する昨年末頃の見通しでは「米国などの強硬な金融引き締めによって物価や景気が減速し、景気悪化（EPSの縮小）と金利低下（PERの拡大）が綱引きする形で後者の株高要因が年後半に優ってくる」でした。ところが上述のような世界景気の強さから欧米の景気後退観測が薄れ、「物価高止まりに伴う金利上昇（PERの縮小）と景気拡大（EPSの拡大）が綱引きする」構図に足元、変化しています。米欧金融政策は物価安定目標達成を最重視しており、4～6月期以降、金融引き締めが効いてインフレが沈静化し、金融政策の転換（利上げ打ち止め⇒利下げ）が見えてくるのか、焦点になるでしょう。

3月の主要国金融政策会合は日銀が9～10日、欧ECBが16日、米FOMCが21～22日に予定されています。日銀は黒田体制最後の会合となり、次回会合（4月27～28日）以降、植田体制に移行する見込みですが、3月会合では政策の現状維持がコンセンサス予想です。ECBはユーロ圏のコア物価が高止まりしているため、3会合連続で0.5%利上げを行なう可能性が高そうです。米FOMCでは一部に利上げ幅の再拡大（0.25⇒0.5%）を予想する向きもありますが、0.25%利上げがコンセンサス予想です。利上げ打ち止め時期について米国では6月か7月へ、ECBも秋に後ズレの見方が大勢になっています。

世界株は、米欧などの物価減速と利上げ打ち止め時期が後ズレすることで、株価のもみ合い局面が長引く可能性があります。ただし、ラグを伴いながらも、強硬な金融引き締めは着実にインフレを抑制するとみられ、先行き賃金や物価の減速が鮮明化すれば、金融政策の転換を織り込む形で上昇相場に移行するでしょう。物色面では世界的なコロナ禍収束と経済再開で恩恵を受ける旅行・サービス消費関連などが市場人気を集めそうです。米国の金融政策の転換が見えてくれば、大幅な株価調整を演じたハイテク株など成長株が注目されそうです。

(3月2日)

運用メンバーからのメッセージ

毎月、トピックを用意して運用メンバーのコメントを集めています。
多様な考えや価値観をお届けすることを通じて、新しい視点を持っていただくきっかけになれば幸いです。

今月のトピック

卒業式シーズンになりました。卒業したいと思っていることを教えてください。



Fujino Hideto
藤野 英人
代表取締役会長兼社長
最高投資責任者

メタボ生活は卒業したいですね！でも卒業しても再入学することがあるので油断は禁物です。



Yuasa Mitsuhiro
湯浅 光裕
代表取締役副社長
未来戦略部長

何かを卒業したい、終わりにしたいとあまり考えません。逆に自然と何かが終わってしばらく経った時に「卒業したのだな～」と思うことはあります。



Watanabe Shota
渡邊 庄太
運用本部長
株式戦略部長
シニア・アナリスト
シニア・ファンドマネージャー

慌ただしい毎日で手当たり次第に仕事を片付けていくような日々が常態化してしまっていて、長期目線で見失ってはいけないものをおざなりにしているような気がしています。なので、自分がやらなくてもよいことは思い切って止め、時間の浪費は卒業したいと思います。端的なのはオフタイムに漫然と見てしまう動画、ですね。



Yatsuo Hisashi
八尾 尚志
シニア・アナリスト
シニア・ファンドマネージャー

とにかく花粉症からの卒業です。病院に行けばいいだけの話ですが、いい先生のところは混んできると聞くと「イラチ」な自分は待てないなあと感じ市販薬でお茶を濁している感じです。もっとも「花粉症で大変やねん」と言いたいだけなのかもしれません笑



Sasaki Yasuto
佐々木 靖人
シニア・アナリスト
シニア・ファンドマネージャー

パッと反応的になってしまうところです。ダニエル・カーネマンの著書「ファスト&スロー」で紹介された速い思考と遅い思考の、遅い思考を鍛えようとしています。それでも速い思考は習慣なので、自分に対してかなりの影響力があると思います。それを打ち破るには実践するしかないんですよね。



Wei Shanshan
韋 珊珊
シニア・アナリスト
シニア・ファンドマネージャー

好きなことを長期にかけて続けていくようなタイプなので、たまに欠席をしたり、やり方を大きく調整したりすることがあっても、卒業することは珍しいと思います。

運用メンバーからのメッセージ



Takahashi Ryo

高橋 亮

シニア・アナリスト
シニア・ファンドマ
ネージャー

「この支配からの卒業ですね」とかアホなことを真っ先に思いついてしまう癖から卒業したいですね。



Senoh Masanao

妹尾 昌直

シニア・アナリスト

このシーズンで言うと花粉症です。入学したつもりはなかったのですが、気づいたら花粉症に入校してました。この頃家にいても目はかゆく、くしゃみもでて仕事の生産性や精神上にもよくない影響をあたえるので卒業したいです。



Oshiro Shintaro

大城 真太郎

シニア・アナリスト

大学(切実)



Naito Makoto

内藤 誠

シニア・アナリスト

労働人口減少、それを加速させる少子高齢化の流れの中で日本で働く外国人の方も多くなっています。気持ちよく日本でも働いてもらうにはどうしたら良いのか、どういうサービスが彼らに必要なのか、今までの固定観念を変えていく必要があるなと感じています。卒業ではないですが、今までの考え方を大きく変えていく必要性を感じています。



Tada Kensuke

多田 憲介

アナリスト

「ジェネラリスト」を卒業したいです。過去3年間はアナリストとして基礎を固めるため、地域・業種問わずたくさんの会社さんを調査させていただきました。これからの3年間は特定分野を深掘りし、「スペシャリスト」になることに挑戦します。過去3年間で培ってきた「ジェネラリスト」の視点・分析と掛け合わせ、調査の質を上げていきます。



Moriyama Haruki

森山 治紀

アナリスト

積読から卒業したいです。買った方がいいものの断片的に拾い読みしてじっくり読めていない本が溜まっているので少しずつ消化していきたいです。



Matsumoto Ryoga

松本 凌佳

アナリスト

寒くなると、続けていた運動の習慣がなくなり、暖くなるとまた運動を始めだすという、冬眠する変温動物のような生活サイクルを早く卒業したいです。恒温動物に進化することは今年の目標の一つです。今年は何を始めようかと、先日からリサーチを始めています。今のところボルダリングやスイミングを検討しています。

運用メンバーからのメッセージ



Fukumuro Mitsuo
福室 光生
債券戦略部長
シニア・ファンドマネジャー

興味があることが尽きなくて、仕事も含めて今楽しんでいるものから卒業するのはなかなか難しいです。T型というのでしょうか、1つ専門性のあるものを持ちつつ、幅広い視野を持つのが理想です。



Chiba Toshinobu
千葉 俊信
債券戦略部
シニア・ファンドマネジャー

今年こそは、メタボ卒業したいです。



Takabatake Mikio
高島 幹夫
債券戦略部
シニア・クレジットアナリスト

卒業といえば、この年になってもまだ年に一回ぐらい、単位や出席日数が足りなくて学校を卒業できないという内容の夢をみてうなされます。そこまでギリギリの人生は送ってきていないつもりでしたが、いつも何かに追われていることで、心に余裕がなくなっているのかもしれない。悪夢からの卒業を手に入れたと思います。



Okada Taisuke
岡田 泰輔
未来戦略部
シニア・ファンドマネジャー

以前からずっと思っているのですが、いくつかのSNSから卒業したいです。手軽で便利な情報収集ツールである一方で、時間単位あたりの情報の質はあまり高くない気がしており、読書とか運動にもっと時間を使いたいと考えています。



Homma Yuki
本間 雄揮
アナリスト

大盛無料を断ることです。



Miyake Kazuhiro
三宅 一弘
運用本部
経済調査室長

通勤経路にある相田みつを美術館、目にとまった「人生の的 ふたつあったらまよう・・・ひとつがいい」。私は専門職で歩んできましたが、手広くない分、卒業よりも継続かなあ。。。



Hashimoto Yuichi
橋本 裕一
マーケットエコノミスト

「ながら〇〇」を卒業したいです。特に何かに集中すべきときは。たいていスマホが悪さをしますが。

ひふみらいとの特色

「ひふみらいと」は、投資信託証券への投資を通じて、主として内外の株式および内外の債券に実質的に投資し、信託財産の中長期的な成長を図ることを目的として運用を行ないます。

- ① 投資信託証券への投資を通じて、世界の株式および債券等に分散投資を行ないます。
- ② 原則として、株式に約10%、債券に約90%投資します。

ひふみ投信の特色（ご参考）

「ひふみ投信」は、マザーファンドを通じて信託財産の長期的な成長を図るため、次の仕組みで運用します。

- ① 国内外の上場株式を主要な投資対象とし、市場価値が割安と考えられる銘柄を選別して長期的に投資します。
- ② 株式の組入比率は変化します。
- ③ 運用はファミリーファンド方式により、マザーファンドを通じて行ないます。

ひふみワールドの特色（ご参考）

「ひふみワールド」は、マザーファンドを通じて信託財産の長期的な成長を図るため、次の仕組みで運用します。

- ① 日本を除く世界各国の株式等を主要な投資対象とし、成長性が高いと判断される銘柄を中心に選別して投資します。
- ② 株式の組入比率は変化します。
- ③ 株式の組入資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
- ④ 運用はファミリーファンド方式により、マザーファンドを通じて行ないます。

投資リスク

■ 基準価額の変動要因

- ・ 投資信託証券への投資を通じて株式など値動きのある証券（外国の証券には為替リスクもあります。）に投資いたしますので、基準価額は、大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。これらの運用により生じる利益および損失は、すべてお客様（受益者）に帰属します。
- ・ 投資信託は預貯金等とは異なります。

■ 基準価額の変動要因となる主なリスク

価格変動リスク	国内外の株式や公社債を実質的な主要投資対象とする場合、一般に株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、また、公社債の価格は発行体の信用力の変動、市場金利の変動等を受けて変動するため、その影響を受け損失を被るリスクがあります。
流動性リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性のもとでの取引が行なえない、あるいは不利な条件で取引を強いられ、または取引が不可能となる場合があります。これにより、当該有価証券等を期待する価格で売却あるいは取得できない可能性があり、この場合、不測の損失を被るリスクがあります。
信用リスク	有価証券等の発行者や有価証券の貸付け等における取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想される場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となるおそれがあります。投資した企業等にこのような重大な危機が生じた場合には、大きな損失が生じるリスクがあります。また、実質的に投資した債券の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合またはそれが予想される場合には、債券価格が下落する可能性があり、損失を被るリスクがあります。
為替変動リスク	外貨建資産を組み入れた場合、当該通貨と円との為替変動の影響を受け、損失が生じることがあります。また、一部の資産において、為替ヘッジを行なう場合に円の金利が為替ヘッジを行なう通貨の金利より低いとき、この金利差に相当するヘッジコストが発生します。
カントリーリスク（エマージング市場に関わるリスク）	当該国・地域の政治・経済情勢や株式を発行している企業の業績、市場の需給等、さまざまな要因を反映して、有価証券等の価格が大きく変動するリスクがあります。エマージング市場（新興国市場）への投資においては、政治・経済的不確実性、決済システム等市場インフラの未発達、情報開示制度や監督当局による法制度の未整備、為替レートの大きな変動、外国への送金規制等の状況によって有価証券等の価格変動が大きくなる場合があります。また、新興国の公社債は先進国の公社債と比較して価格変動が大きく、債務不履行が生じるリスクがより高いものになる可能性があります。

※投資リスク(基準価額の変動要因)は、上記に限定されるものではありません。

当資料のご留意点

- 当資料はレオス・キャピタルワークスが作成した販売用資料です。投資信託のお申込みにあたっては、事前に販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- 当資料に記載されている当社が運用する投資信託の過去の運用結果等は、将来の結果等をお約束するものではありません。また、当該過去の運用結果等は、当該投資信託に投資をされた各投資家の利回りを表すものではありません。運用実績は投資信託の利益にかかる税金等を考慮していません。
- 当資料は作成日における信頼できる情報に基づき作成しておりますが、内容の正確性・完全性を保証するものではなく、また記載されている内容は予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- セミナー等で金融商品の説明等を行うことや、お客様からのご依頼がある場合に金融商品に関連する追加の説明等を行うことがあります。しかしながら、売買の推奨等を目的とした投資勧誘は行ないません。また、金融商品の案内、説明等はあくまで各お客様ご自身の判断に資するための情報提供目的であり、金融商品の購入等を推奨するものでもありません。

お申込メモ

	ひふみらいと	ひふみ投信（ご参考）	ひふみワールド（ご参考）
商品分類	追加型投信／内外／資産複合	追加型投信／内外／株式	追加型投信／海外／株式
当初設定日	2021年3月30日	2008年10月1日	2019年10月8日
信託期間	無期限		
決算日	毎年4月15日(休業日の場合翌営業日)	毎年9月30日(休業日の場合翌営業日)	毎年2月15日(休業日の場合翌営業日)
収益の分配	決算時に収益分配方針に基づいて分配を行いません。分配金再投資専用のため、分配金は自動的に再投資されます。		
購入単位	1,000円以上1円単位の金額指定で受け付けます。		
購入価額	ご購入のお申込受付日の <u>翌営業日の基準価額</u> （1万口当り）		
購入代金	販売会社が定める日までに販売会社にお支払いください。		
換金(解約)単位	1口以上の口数指定または1円単位の金額指定で受け付けます。		
換金価額	換金申込受付日の <u>翌営業日の基準価額</u> （1万口当り）		
換金代金	換金申込受付日から起算して6営業日目から支払われます。	換金申込受付日から起算して5営業日目から支払われます。	
購入・換金 申込受付 不可日	ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行、香港証券取引所、香港の銀行またはロンドンの銀行のいずれかの休業日と同じ日付の場合には、申込受付は行ないません。	—	ニューヨーク証券取引所または香港証券取引所のいずれかの休業日と同じ日付の場合には、申込受付は行ないません。
申込締切時間	購入・換金ともに、毎営業日の15時までに受け付けたものを当日のお申込みとします。		
課税関係	課税上は、株式投資信託として取り扱われます。配当控除の適用はありません。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。		

お客様にご負担いただく費用

◇直接ご負担いただく費用：ありません。

申込手数料・換金（解約）手数料・信託財産留保額 は一切ありません。なお、「スポット購入」に際しての送金手数料はお客様負担となります。

◇間接的にご負担いただく費用：次のとおりです。

	ひふみらいと	ひふみ投信（ご参考）	ひふみワールド（ご参考）
運用管理費用 （信託報酬）	ひふみらいと：信託財産の日々の純資産総額に対して 年率0.55%（税込） を乗じて得た額 投資対象とする投資信託証券(ひふみワールドファンドFOFs用(適格機関投資家専用))：純資産総額に対して年率0.0022%（税込） 実質的な負担※：純資産総額に対して 年率0.5522%（税込）程度	信託財産の日々の純資産総額に対して 年率1.078%（税込） を乗じて得た額	信託財産の日々の純資産総額に対して 年率1.628%（税込） を乗じて得た額
	信託報酬とは、投資信託の運用・管理にかかる費用のことです。日々計算されて、投資信託の基準価額に反映されます。毎計算期間の最初の6ヵ月終了日および毎計算期末または信託終了のとき信託財産から支払われます。 ※投資対象ファンドを基本の組入比率で按分した投資対象ファンドの運用管理費用（信託報酬）を加味して、投資者が実質的に負担する信託報酬率について算出したものです。この値は目安であり、各投資信託証券への投資比率の変更等により変動します。また、投資対象ファンドの変更等により今後変更となる場合があります。		
監査費用	信託財産の純資産総額に対して年率0.0055%（税込）以内を乗じて得た額。監査費用は監査法人との契約条件の見直しにより変更となる場合があります。日々計算されて、毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。		
その他費用・ 手数料	投資対象とする投資信託証券における諸費用および税金等、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立て替えた立替金の利息など。	組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料（それにかかる消費税）、先物取引・オプション取引等に要する費用、外貨建資産の保管等に要する費用、租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託会社の立て替えた立替金の利息など。	
	これらの費用は、運用状況等により変動するものであり、予めその金額や上限額、計算方法等を具体的に記載することはできません。		

※手数料等の合計金額については保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

ファンドの関係法人

委託会社：レオス・キャピタルワークス株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1151号
加入協会 一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
受託会社：（ひふみらいと）三井住友信託銀行株式会社
（ひふみ投信）三井住友信託銀行株式会社
（ひふみワールド）三菱UFJ信託銀行株式会社
販売会社：レオス・キャピタルワークス株式会社

各ファンドについてのお問い合わせ先



レオス・キャピタルワークス株式会社
コミュニケーション・センター
電話：03-6266-0123 メール：cc@rheos.jp
受付時間：営業日の9時～17時
ウェブサイト：https://www.rheos.jp/

※詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご確認ください